

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

令和元年度 第2回 地域協議会 議事録

- 日 時：令和2年3月11日（水） 20：00～21：00
- 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
- 議 題：1. 病院の近況について
2. 収支状況等報告
3. その他（意見交換）
- 出席者：松本雅彦（大宮医師会会長）、百村伸一（自治医科大学付属さいたま医療センター長）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、菅原養厚（副院長）、中條洋（院長補佐）、安藤さとみ（看護部長）、五井周一（事務長）、百本輝茂（事務長補佐）、工藤夕貴（地域連携室係長）、佐藤弘明（総務係 書記）
- 欠席者：青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事）業務多忙のため
中村梨絵子（さいたま市保健福祉局地域医療課長）業務多忙のため
- 院長挨拶
- 委員紹介
- 議長の選出：百村委員

1. 病院の近況について（五井事務長）

・病棟運用について⇒ 入院患者が増加し、4階、5階病棟では病棟運用が厳しくなってきたこと、他のJCHO病院から看護師派遣の応援が得られたことから、令和2年1月より6階病棟51床のうち、36床を仮オープンした。できるだけ早期のフルオープンを目指す。

・電子カルテについて⇒ 3月1日より電子カルテを導入した。未だ不慣れな点もあるため、各セクションにて待ち時間が発生しており、患者様にご迷惑をおかけしている。早期に通常時間での診療となるよう努めていく。

・新型コロナウイルスへの対応について⇒ 当院は入院患者への面会者に発熱がある

場合の面会制限、外来において疑いのある患者さんが受診された場合の対応、職員が発熱した場合や同居者に陽性反応が出た際の出勤停止、行政や JCHO 本部より入院患者受け入れ要請があった際の体制について、院内感染対策委員会を中心とした対策マニュアルに沿って行動することとしている。

・地域連携について⇒ 医師会の先生方との連携強化、介護施設との連携、高度急性期病院との診療連携に引き続き努めている。また、令和2年4月より整形外科常勤医2名体制となり入院患者数が増加する見込みのため、回復期リハビリテーション病院との連携強化を新たに図っている。

・医療人材育成について⇒ 今年度より、自治医科大学附属さいたま医療センターの初期研修2年目の研修医を受け入れ、初診、救急、訪問診療を中心に研修を受けてもらっている。また、今年度は小児科専攻医が半年間研修を受けております。看護部、薬剤部、MSWも積極的に研修を受け入れており、今後も医療人材育成に力を入れていく。

—松本会長：さいたま市休日夜間急患センターの電子カルテについては、当初、操作研修の際に操作が困難と訴える先生が多くおり心配していたが、補助の方がついてくれて大きな問題なく安心した。しばらくは補助の方を配置して欲しい。

—事務長：補助者は、当面、平日は20時頃まで常駐するようにし、土日祝日もできる限りサポートしたいと考えているが、電算室の職員も人が足りない状況であるが、4月から1名確保できる見込みである。3月については、日曜、祝日は業者、土曜は当院職員で対応することとしている。4月以降は、当院職員と派遣職員で当面サポートをしていく予定である。

—百村センター長：新型コロナウイルスへの対応状況は。

—院長：新型コロナウイルスについて、当院では対応困難なため、発熱後心配な患者は、帰国者・接触者相談センターに電話するよう促しているが、相談なしで発熱患者が来院してしまったら別室で診察をしている。今後も感染が拡大し、当院でも診療せざるを得ない場合、防護服とアイガードの確保が一番の問題となる。

—百村センター長：防護服については、さいたま市や埼玉県からの供給はあるか。

—院長：当院でも診療を行うことになった場合、防護服がないと診られないが入荷が困

難な状況なので配布を要望したい。現在、発熱患者の導線は院内を通り感染専用の待合室で待機してもらっている。患者がさらに増えてきたら、外からのアプローチも考えないとならない。

―田中会長：新型コロナウイルス陽性患者受け入れの可能性はあるか。

―院長：今後、患者が増加してきたら可能性はある。

―田中会長：さいたま市内の陽性患者が少ないが、どのように捉えるべきか。

―百村センター長：主に疑いの強い人にもみ検査をしているため、分からないという状況。感染の機会はあるため、マスク着用と手洗いうがいを徹底してもらいたい。また、発熱時もすぐに医療機関を受診するのではなく、行政の推奨通り帰国者・接触者相談センターに電話をしてもらいたい。

―田中会長：高齢者は、抵抗力が低下していることと生活習慣病がある場合、リスクが増えると言われているが、いかがか。

―百村センター長：新型コロナウイルスに限らず、高齢者や生活習慣病の患者は呼吸器感染を起こしやすい。子供は重症化しにくいと言われているが、学校で感染した病気を高齢の家族にうつすリスクがあるため、現在の休校措置は一定の抑止になっているのではないか。

―院長：新型コロナウイルス感染防止対策として、一斉休校をしているため看護師が出勤できず外来が回らない状況であり、予約患者は診察しているが、初診の患者は残念ながらしばらくの間お断りしていく。紹介状をお持ちの方は診察しますので、この体制を地域住民のみなさまへ周知をお願いしたい。

―田中会長：公立・公的病院再検証要請対象医療機関リストにさいたま北部医療センターがリストアップされた件について、各地区自治会連合会会長、市議会議員と共に厚労省へ陳情してきた。

―院長：そのような活動はありがたい。次回のさいたま市地域医療構想調整会議で、詳しく説明する時間を頂いたので、委員の方々にご理解いただけるよう準備をしている。

―百村センター長：入退院支援加算の取り組みはいかがか。

―看護部長：地域医療連携室に看護師3名を配置している。全科の入院情報を集約する

ことは困難なため、現在は診療科を限定して取り組んでいる。

2. 収支状況等報告（百本事務長補佐）

令和元年度 1 月現在で年度計画を下回り、約 2 億 2,700 万円の赤字となっている。入院患者数は、計画 102 人を下回り 95 人だが、診療単価が計画を上回ったことで収益も計画を上回っている。外来患者数も、1 月現在で計画の 1 日平均患者数 685 人を上回り 698 人となっており、収益も計画を上回っている。診療収益は好調だったが、電子カルテ導入が遅れたことに伴い、紙カルテ運用による委託費が増となったこと、減価償却費が当初の計画を修正したことで大幅増となったことなどにより、費用も増加した。

—松本会長：1 月現在の数字だが、年度末までの見込みは計画通りか。

—事務長：計画を下回る予定。年度初めは大きな赤字が続いたが、10 月頃から入院患者数が増加し、収支は安定してきた。4 月に整形外科常勤医が 1 名増となり常勤 2 名体制となる。入院患者数が伸びてくれば経営は安定してくると思っている。6 階病棟をオープンしたことにより、極端に入院患者数が伸びているわけではないが、収益は安定して伸びてきている。

—百村センター長：来年度の収支は損益の改善が見込めるか。

—事務長：計画としては黒字を見込んでいる。

—松本会長：救急受入患者数が年間 2,000 件を超えると点数を与えられるようだがいかがか。

—院長：毎月約 100 件なので、年間 1,300~1,400 件。要請を断っている例も見受けられるが、依頼件数が増加し受入れ率も向上してくれば、2,000 件にも手が届くと考えている。

—田中会長：3 月に入り、新型コロナウイルスやインフルエンザの影響で外来患者数は減少しているか。

—院長：今年のインフルエンザ患者は少なく初診の患者を制限しているため、1 月で 1 日平均患者数 698 人だが、3 月は 300 人台となっている。

―百村センター長：今後の見通しとして、入院と外来患者数のバランスと整形外科常勤医増員による手術件数の伸びはいかがか。

―事務長：外来診療は逆紹介に取り組んでいる。入院患者数は、整形外科の患者数と手術件数が増える見通しで、1日入院患者数130人台を目標にしている。入院、外来共に前年度に対して診療単価が大幅増となっており、患者数を確保できれば、さらに増収を見込め安定経営を維持できると考えている。

3. その他（意見交換）

―松本会長：以前は検査をして病気が見つければ大きな病院に紹介していたが、消化器外科の先生が5人と充実しているので、そのままさいたま北部医療センターで入院、手術ができることは良い流れだと思う。

―田中会長：引き続き住民向けの公開講座を定期的にお願したい。

―院長：新型コロナウイルス感染防止対策として現在中止しているが、収束したら再開したいと思う。

―百村センター長：面会制限の案内はホームページや院内掲示を行っているか。自分の病院も分かりづらい掲載なので、別の病院を参考にトップページに赤字で分かりやすく掲載した。

―院長：院内掲示、ホームページに掲載している。強調については参考にさせていただく。

次回開催について

―事務長補佐：令和2年度第1回は10月開催予定。日程調整のうえ後日お知らせといたしたい。

以上